

労働災害

死傷災害と重大災害の発生件数が四年ぶりに減少——厚労省集計

TOPICS

トピックス

4

死傷災害の発生要因でみると、多い順に、「墜落・転落」（五九八三人）、「はさまれ・巻き込まれ」（一八八九人）、「飛来・落下」（一八〇二人）、「切れ・こすれ」（一六三二人）などとなる。

前年と比較すると、「墜落・転落」（前年比九一人増）、「はさまれ・巻き込まれ」（同一六人増）など増加しており、全体の三分の一近くを占める「墜落・転落」の増加が目立つ結果となった。

外国人労働者の災害発生状況

死傷災害に関しては、外国人労働者についても集計している。

それによると、二〇一三年の外国人労働者数（外国人雇用状況の届出状況に基づき）は七万七千五百四十四人で、死傷者数（労働者死傷病報告）は二万五千二百五十四人、前年より労働者は三万五千五百四十四人増えたが、死傷者は四〇〇人減少した。外国人労働者の死傷者数は一〇年以降、一二〇〇〇人台で推移している。

重大災害は四年ぶりに減少

一方、一度に三人以上が被災する重大災害は二四四件（前年比四〇件減）となり、四年ぶりに減少した。業種別で見ると、もっとも重大災害が発生したのは建設業（九三件）で、以下、製造業（三四件）、陸上貨物運送事業（一六件）が続く。発生要因をみると、建設業、陸上貨物運送事業は「交通事故」、製造業は「中毒・薬傷」が最多となった。（調査・解析部）

厚生労働省は五月一六日、平成二五（二〇一三）年の労働災害発生状況と取りまとめた。それによると、死亡災害、死傷災害、重大災害の発生件数がいずれも前年を下回り、死亡災害は二年ぶり、死傷災害と重大災害は四年ぶりに減少に転じたことが明らかとなった。

建設業では「墜落・転落」の死亡災害が最多

労働災害による死亡者数は一〇三〇人となり、前年比六三人減（五・八％減）となり、二年ぶりに減少に転じた。業種別にみると、労災死亡者がもっとも多いのは建設業で三四二人（前年比二五人減、六・八％減）となる。死亡災害の発生要因でみると、多い順に「墜落・転落」（一六〇人）、「崩壊・倒壊」（三六人）、「交通事故（道路）」（三三人）、「激突され」（二七人）などとなる。前年と比較すると、「墜落・転落」（前年比三人増）、「交通事故（道路）」（同四人増）が増加する一方、「崩壊・倒壊」（同一人減）、「激突され」（同一五人減）は減少する。

第三次産業では「交通事故」がトップ

建設業について死亡災害が多かったのは第三次産業で二八二人（前年比一五人減、五・一％減）となる。死亡災害の発生要因でみると、多い順に「交

通事故（道路）」（一一一人）、「墜落・転落（五三人）」「はさまれ・巻き込まれ」（三二人）などが並ぶ。

前年と比較すると、「墜落・転落」（前年比三人増）、「はさまれ・巻き込まれ」（同一人増）と増加する一方、「交通事故（道路）」（同一五人減）は減少し、災害発生要因の過半を占めていた交通事故が大きく減少した。

製造業では「墜落・転落」が減少

死亡災害者数が三番目に多い業種は製造業で二〇一人（同一人増、一・〇％増）となる。死亡災害の発生要因で見ると、「はさまれ・巻き込まれ」（六一人）、「墜落・転落」（二四人）、「飛来・落下」（二〇人）、「交通事故（道路）」（二六人）などとなる。

前年と比較すると、「飛来・落下」（前年比六人増）、「交通事故（道路）」（同一三人増）は増加する一方、「墜落・転落」（同一四人減）、「はさまれ・巻き込まれ」（同一二人減）は減少しており、「墜落・転落」の減少が目立つ結果となる。

死傷災害は第三次産業がトップ

一方、労働災害による死傷者数（死亡・休業四日以上）は一万八千五百七十七人、前年比一四一九人減（一・二％減）と四年ぶりに減少に転じた。業種別にみると、死傷者数がもっとも

多いのは第三次産業で五万一千四二〇人（前年比四三〇人減、〇・八％減）となる。死傷災害の発生要因で見ると、多い順に、「転倒」（二万五千九七一人）、「動作の反動・無理な動作」（八一五〇人）、「墜落・転落」（二六二二人）、「交通事故（道路）」（五〇六五人）などとなる。

前年と比べると、「動作の反動・無理な動作」（前年比一七六人減）と「交通事故（道路）」（同一七六人減）が大きく減少した。

製造業では「はさまれ・巻き込まれ」が減少

第三次産業について死傷災害が多いのは製造業で二万七千七十七人（同一二一人減、四・三％減）となった。

死傷災害の発生要因で見ると、多い順に、「はさまれ・巻き込まれ」（七六二六人）、「転倒」（四七五五人）、「切れ・こすれ」（二九七二件）、「墜落・転落」（二七二七人）などが並ぶ。

前年と比べると、「はさまれ・巻き込まれ」（前年比四五一一人減）、「墜落・転落」（同一九九人減）などが大きく減少した。

建設業では「墜落・転落」が微減

続いて死傷災害が多いのが建設業で一万七千八百九十九人（同一一六人増、〇・七％増）となる。